慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	都市生活論
Sub Title	
Author	奥井, 復太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1938
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.32, No.9 (1938. 9) ,p.1197(47)- 1225(75)
JaLC DOI	10.14991/001.19380901-0047
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19380901-0047

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

全部武器の輸入であるのも、何人に賣却されたか解らないが、面白い。「鎖」の字を宛て何と讀んだのか、英譯には "total duty 760 Boos and 80 cent" と云ふやうになつてゐる。かうした輸入關稅の滯納があつたことが、後に慶應二年の貿易規則に第一條第二項のやうな規定(59)を必要とするに至つたのかも知れない。尤もこのアントニイ・ロウレイロについては明治になつてもこれに似た訴訟事件のあつた特別な人物である。しかしかうした外國商人は蓋し少なくなかつたのであらう。尤も關稅については洋銀の換算率等で外國人間に不平のあつたことも事實である。(60)

(註五五)「貴國の人馬駕籠にのり市中通行致候とも、都而門ある內江は乘入らさる樣相達被置度存候」(文久元年八月二日)。

(註五六)「居留場餘々居宅前海岸石垣無沙汰に取崩し候もの有之ニ付先達而ヨリ度々差止メ候得とも取用ひ無之ニ付、右石垣如元早々築立候樣、其向に被申渡度此段申上候」(文久二年三月)。

(註五七)「當地西泊戸町兩番所前海面江船繫いたし候儀、風樣樣ニ寄不任進退節者無據事ニ候得共、風樣直リ候上ハ速ニ繫リ替候樣可致旨、已來入津之船々江被達置候樣いたし虫喰口口存候」(文久二年十二月十九日)。

(註五八)「當五月十四日夜寄合町引田屋かつ方ニおゐて、人を殺及亂暴候ヘロイス船之水夫五人、追々被遂吟味候由、右始末早々被申聞候樣致度候」(文久二年六月十一日)。

(註五九)「註三九」を參照。

(註六〇) Paske-Smith, op. cit, pp.202-3. etc.

(本稿は最初の豫定では明治維新以後に及ぶつもりであつたが、あまり長きに失するので二つに分けた。次ぎに發表する「維新直後の長崎」と合せて完了するものである。なほ長崎の事情につき無知の誤りもあらうし、又和蘭語の誤寫誤讀もあらうと思ふ。敢て御教示を乞ふ。參考文獻については高村象平君を煩はすこと大であつた。こゝに謝意を表する。)

都市生活論

奥井復太郎

序

現時、我國々民生活の時局的生活更改が要求されてゐる時に當つて、從來の生活樣式や態度に就いて、或るものは無駄の故を以つて、或るものは奢侈贅澤の故を以つて、或るものは資材節約の趣旨によつて、或るものは時局的緊張に反する浮薄の故を以つて、生活諸相に色々と非難が加へられ改善が叫ばれてゐる。しかし此の非難・改善は國民生活の全般に及ぶとは云ひ乍ら、其の重心は何と云つても現代生活の代表型である都市生活に置かれてゐる事は否定すべくも無い。殊に時局的精神に沿はざる故を以つての生活非難は先づ都市々民の生活にのみ向けられてゐると云つて差支ない。

全く都市と農村とは生活の樣式や態度について見ても判然と區別する事が出來る。否、むしろ、生產とか消費とか云ふ概念によるよりも、居住者の生活樣式・生活態度による相違を標識とした方が、よく兩者の區別を明かにし得るのでは無いかとさへ思はれる。一國には都會の生活と田舍の生活とがあり、是等兩者は斯々の相違を示すと云

ふ事は可なり判然と言ひ切れる事と思はれる。此の故に、或る社會學者は、都市とは特定の心的狀態だと云つてゐる。心的狀態とは、換言すれば、特定の生活及び環境に對應する特定の心理的過程に外ならぬ。

都市の生活に對する倫理的な批判は決して少くない。しかし倫理的批判にしたところで其の背景に充分な社會的經濟的根據を持つてゐないと、有力なものとはなり兼ねる。換言すれば、充分、都市生活の社會的經濟的約束を理解した上での批判でなければ充分に壓力的なものとはなり得ない。それは凡べての批判の意義及び効果に關して妥當する所であつて、茲に批判の客觀的基礎が與へられるワケであるが、單に都會人の生活が上擦つてゐるとか、獨善的で人情が酷薄であるとか云ふ樣な非難は、勿論、一部には之れが正しく當る方面も無いでは無いが、全體として都市生活の根據に就いて理解を缺く爲めに、起されてゐるものが決して少くない。

生活の改善に就いて見ても同樣である。都會の生活は實實でなくて華美である。ムラ氣とか好みとかゞ盛に强調される。よく云へば之れが優雅とか都雅とか云ふ生活態度であつて、田舍の粗野・粗暴と區別されて文化的なものとされる。文明論者はかうした生活の精練を以つて進歩と考へるであらう。從つて都會は進歩の本源であり且つ表現であると讃へたくなる。所で、此の生活態度を改善し樣となると、勿論、非常時局的觀點に立つて云へば趣味嗜好やムラ氣の問題では無くして實質の世界へと移行して來る。以つて一汁一菜となり國民服制定となる。勤勞主義となつて遊戲娯樂の全般的部分的排擊となる。戰爭文學となり戰爭美術となる。しかし是等の傾向にしても、無條件に全體の支援を受けてゐるワケでは無い。國民的矜持と云ふ建前から、一時はオリムピツクなり博覽會なりの開

催が强く主張された事もあり、又、極端な生活の改善・統制に對しての反對ともなる。喰へぬ武士の高楊子は、武士道精神の一端とされてゐた。此の痩我慢なり志操なりは、平常に於ける武士的生活態度の表現であり、武士的矜持の表現でもある。窮厄に際して屈せざる心掛けの現れでもある。赤貧に零落した豪商が、かつて最負の割間に祝儀を出す事を忘れなかつた志は市井の人氣を呼ぶ所でもあつた。

人間は自分の理解外にあるものに對しては往々にして正しき批判を下し難いものである。外國人の生活態度に頗る不明の點が多いと同樣に同國人に就いても、田舍と都會、富者と貧者、各々生活の世界を異にするものにあつては、他人の生活を充分に理解し難いが故に、其の生活態度に對して、動もすれば、酷薄な批判を加へ勝ちである。勿論、決して異つた世界からの批判が無意味だと云ふのでは無い。しかし生活する世界が異ると、一方では何等問題にならぬ事象が、他方では頗る問題化する場合がある。故に實際には此の見解や立場の相違を統合する、大きな、もう一段上の批判と其の基準が最も重要なのである。一方的な批判や判斷の偏歪を正す爲めには、此の上位の批判基準が必要なのである。凡べての批判殊に學問的な社會的な批判は之れでなければならぬ。此の批判が充分成立する爲めには、異れる世界や生活を統一する上位の世界、部分を統合する全體者の價値を確立するのが根本的であるが、それと同時に、部分者の異れる生活や世界に就いての正當なる理解が必要な豫備條件である。徒らに富豪の暴富を呪詛したり、貧民の無智狂暴を厭忌する許りでなく、富と貧とが同一社會に於いて生ずる過程に就いての正しき理解を以つて、統合社會の立場から見て、はじめて貧富の現象、及び其の生活態度に就いての正しき批判が下され得

る理である。過般問題になつた所謂「學生狩り」にしても同樣である。之れに對する正しき批判は我國文明の段階に於ける學生の意義に就いて正しい理解を持つた者のみに期待する事が出來よう。學生の意義に就いての理解と云つても單に第二の國民とか、次代の指導者とか云ふ樣な空漠な理解では凡そ無意味である。

此の意味で、先づ頗る問題的なものを最も多く含んでゐる都市生活に就いて論じてみたいと思ふ。

一

都會の生活は一言にしてよく複雜だと云はれる。成程、一市民の生活に就いて見ても、或ひは都市の構成自體に就いて見ても、複雜だと云ふ事は例外なく認める事が出來るであらう。都市の構成が社會的に複雜である事に就いては、其の職業構成・階級構成・身分構成等に就いて實證的統計的に例證する事が出來よう。換言すれば、現代の都市は其の構成內容に此の複雜性を持たねば成立し得るものでないと云ふ事は動し難い事實である。市民生活に就いての複雜性も同樣である。衣食住に就いてと同樣に娛樂・修養・運動・信仰・社交等に於いても複雜である。「廣い樣でも案外狹い世間」と云ふ言葉は、「狹さ」を驚くと共に「廣さ」を當然のものと規定しての所感である。而して此の廣い世間に於ける一個人の經驗や接觸は極めて複雜である。反面からみると、都會の單調と云ふ言葉に相應する生活相が無いでもない。一市民の日々反復する生活は一定の軌道によつてゐて、大體はづれる事が無い。其の意味で、生活は機械的反復であつて生長的變化を見ない。出勤の朝の次には、休憩と食事の晝が來て、退勤の夕方と共に解放の夜が來る。勤勞の生活にしても、大部分には創造的勞作は許されてゐない。全體的仕事は偉大なる創作であつても、一市民の與る部分は、單なる機械的部分に過ぎなく、其の部分的工程の一生涯的反覆である。此の意味で市民の生活は單調である。機械的約束に呪縛されて一分一秒寸毫の狂ひもない規格的生活である。しかしかゝる市民の生活が他面で複雜であると云ふ事は決して間違ひでない。玆で複雜と云ふのは、撰擇性の問題に關聯して來る。市民にとつて撰擇が可能なる場合複雜の問題となる。例へば住宅にしても、獨立家屋や集團住宅、和・洋・折衷・郊外住宅と市內住宅の樣式があつて、市民の資力に應じて大なり小なりの撰擇を可能ならしめる。食事に就いても、衣服に就いても同樣である。市民の生活が複雜である一面は、此の撰擇性の問題である。玆に市民の趣味・嗜好の表現がある。

市民の經驗や社會的接觸に於いて複雜である事は、一通り周知の事實である。都市構成が異雜的であるが故に、一市民の經驗も當然雜多になる理であり、其の接觸も同じく複雜になる。

斯くの如き一市民の生活を廻ぐる複雜性に就いては同じく統計的資料が之れを立證するであらう。大衆的娛樂機關の種類や性質、演劇映畫其の他興行物の種類性質等に就いて見れば、市民生活の複雜性に就いての資料は比較的容易に蒐集し得る。食事衣服等に就いても同樣である。

しからばかゝる複雜性は如何なる根據を以つて都會生活の特色となるか。既に撰擇性の特質を擧げたが、撰擇性の問題であるからには玆に市民の趣味性嗜好性に關聯せしめねばならぬ。故に衣食住其の他の生活方面に複雜性がある所以は、市民の嗜好・趣味に變化が多い證左である。市民の嗜好・趣味が單一でないからして、之れに應ふべき

諸般の用意が同じく複雜なのである。市民の嗜好・趣味が單一でないと云ふ事は、特定の一市民に就いての事實でなくして、市民全體が嗜好・趣味を共通にせざる人々から成つてゐる事實によるものである。一市民の嗜好・趣味に就いては、其の當人としての統一性はある。從つて多趣味・多嗜好が現はれるのは（撰擇性の問題として註）全市民としての場合に就いてゞある。即ち市民の嗜好・趣味の相違が根本的事實となるが、此の事實は實に何に對應して發生したか。とりもなほさず、市民の構成自體が複雜だと云ふ事に對應した事實である。即ち、市民の個人的生活樣式が複雜だと云ふ事實は、市民の生活環境が複雜だと云ふ事實に外ならぬ。生活環境が複雜だと云ふ事は、都市構成それ自體の複雜性の反面である。從つて一市民の複雜性は都市自體の複雜性の反映に外ならない。換言すればいづれも一つの事實の異つた局相に外ならぬ。

註　撰擇性の問題は、數次に分ける事が出來る。例へば晝食に就いて見ても、自宅で喰ふか外で喰ふかも撰擇性の一つであるが、飯を喰ふか、何か他のものを喰ふかも撰擇の問題である。しかるに飯にしても、獸・鳥・魚肉か又は野菜か色々の喰方がある。眞實の意味で云ふ複雜性とは、撰擇性が數次に及ぶものゝ甚しい場合に當るもので、アイスクリームやソーダ水、紅茶・コーヒーの味や種類の相違を云々する時に、最も複雜性が發揮される。反之、ソーダ水と汁粉・蜜豆・甘酒等の撰擇はそれ程高次のものとは云へない。此の撰擇が高次のものになればなる程、趣味的と云へる理である。更に撰擇性は、之れを撰擇し得る能力、即ち資力の問題である事を忘れてはならぬ。晝飯代りに鰻大福やスキトンで滿腹する者もある。是等の人々にとつては、爾他の食物はあつてもないと同樣であつて撰擇性の問題に入らぬ。從つて複雜性の問題にもならぬ。

故に、最も廣く食に就いての複雜性を云ふ場合には、撰擇能力の强大な市民に就いて云ふか、或ひは、全市民の撰擇性に就いて云ふか、そのいづれかである。

いづれにせよ、都市自體の複雜性については論外の事實である。しからば、此の複雜性が成立する過程を眺めてみよう。

二

商業主義の社會にあつては、凡べての物質及び勤勞が對價に就いて提供される。それ故、物資及び勤勞の複雜性は、對價の多寡に相應する事となる。換言すれば購買力の多寡に就いて、複雜性が生ずるのである。都市が市場に就いて成立したと云ふ說は決して嘘では無い。唯市場は購買力あつての市場であるが故に、更に都市は購買力の在る所に成立したと云ふ可きであるかも知れない。茲で云ふ購買力とは交易經濟裡に於ける購買力であるからして、無人島に漂流者の持つてゐる貨幣を意味するものでない。經濟上の諸組織を通觀すると、諸々の組織は購買力の發生及び集積に附隨して發達して來てゐる。都市は購買力の集合地であるが故に、都市に於いて經濟上の諸組織は最も發達して來る理である。勿論、全體として農村の購買力は決して輕視する事は出來まい。反產運動が熾烈になるにも、勿論農村向き特有な商品を多分に含んではゐるが、農村の全體としての購買力が相當重大な役目を持つてゐる事を語つてゐる。しかし地域的に見ると農村の購買力は分散的である。之れが特定の一農村に就いて見ると商業的組織が極めて幼稚貧弱である原因となる。反之、都市は其の成立の最初より富の集積地となつてゐる。從つて之

れに對應する商業的組織は常によく發達してゐる。殊に現代の大都市が巨大な人口群を擁し、複雜な構成內容を持つて、尨大な購買力を有する限り、都市の商業的機關は當然、著しい程度に發達した。一人としては微弱な購買力も、數を以つて集れば、相當有力なものとなる、斯くして、都市に於いては複雜な商業機關の成立が可能となるのである。

此の故に、都市に於いては、諸般の生活が市場組織に織込まれて、自給自足の境を全く脫して了ふ。邊疆の地にあつては、住民は萬能でなければならぬ。調理・紡織・裁縫・建築・工藝・農耕・狩獵・治療・敎育等に就いて皆、自給的でなければならぬ。其れ故に家庭の持つ意義は頗る重要であつた。反之、都會では、凡べてのものが皆、市場的に用意される。從つて都會の家庭は、舊來から持つてゐた意義の大部分を喪失した。子供の初等敎育は學校に托し、爲めに主婦の責務は輕減された。職業的實務的敎育すら、家庭よりは專門の學校に主として委ねられた。調理すら、外部に仰ぐ事、決して例外的でなくなつて來た。百貨店の食品部の陳列箱には、既に調理され、唯食膳に上す丈けの勞を持つ許りの食物が豐富に複雜に並んでゐる。治療が專門的仕事になつたのは云ふ迄もない。育兒すら、家庭・主婦の手から離れ得る許りになつてゐる。唯、かくの如き事情は、市場關係であるが故に、他に依存する以上、對價を支拂はねばならぬ。從つて、都市生活は貨幣的でなければならない。玆に於いて都市の生活は、一方では貨幣收得に全努力が傾注される事となる。生活の貧富も人間の働きも、いづれも其の有する金力の大小によつて定まつて來る。あらゆる人間が貨幣的評價を受ける樣になるのも當然である。しかし社會生活の全部が凡べて商業的市場的關係の裡に行はれるワケでは無い。商業的市場的組織の社會的意義は、現在迄のところ、此の方法による社會的調整が最も合理的効果的であるとの理解に基いて、認められてゐるのである。其れ故、社會生活の他の方面には、此の方法によらぬ組織がある。公共的組織が之れであつて、自他共に、社會生活の利便の爲め、社會集團の大きくなるに連れて是等の組織が發達して來る。前に敎育組織に就いて述べたが、嚴密に云へば敎育組織は、商業的市場的組織に基礎を置くものでなくて、公共的組織による可きものである。此の公共的組織の場合には、購買力に代つて納稅力（最も廣い意味で云つて）が問題となる。即ち、社會全體の利益と、併せて個人の便宜の爲めに、或る勤勞なり財貨なりの提供を公共的に組織する事が出來る爲めには、再び相當の資力の存在が先決問題である。此の資力が租稅公租その他の形式で公團體の手に納められて、之れを財源として諸種の事業が經營されるのである。從つて此の場合にも未開地や邊疆の地にあつては是等の組織が成立する餘地なく、從つて、各人が個々に自營しなければならぬ狀態に置かれる。再び巨大な人口群と尨大な富力とを持つた都市が是等の組織に最も富んでゐる所以である。

斯くの如くして、都市に於ける生活は、社會的な（私的或ひは公共的な）制度や組織に依存する生活形式を特色とする。從つて都會生活の特色は、色々の生活上の營みを悉く（極端に云へば）他人に委托して了つて、所得生活を中心にして自分一人の生活を思ふ存分、滿足させればいゝと云ふ生活態度を生み出す事となる。

三

既に述べた所を以つて、人々が最も非難するであらう所の三つの生活態度が擧げられた。即ち貨幣萬能主義と自

我獨善主義との生活態度が都市生活の特色だと云ふ結論は、都市生活を非難する者の最も指彈する所であらう。しかし此の生活態度は、其の善惡は別として、現在の生活方法として、頗る强靱なものであるからして、其の然かる所以を說明しなければならぬ。

先づ第一に貨幣萬能主義に就いて云へば、既に述べた樣に、都會の生活は凡べて市場的に依存せる故、購買力を持たねばならぬ。それも、購買力の大小に、生活の豐裕がかゝるのである。從つてより多くを儲けたいと云ふのが市民の第一の關心である。玆に投機的射倖的利得への强い刺戟がある。定額報酬生活者に、殊に此の射倖心の强烈なのは、其の所得生活の性質上、當然であらう。特殊な收入なくしては、彼等の生活內容に改進を望む事は出來ないから。結局、農村に於いては農民生活の改善が所得的のみならず、餘暇の利用、自家栽培、自家修復、日用物資の自給等の方法で行はれるに反し、都會の生活は、生活の消極化を除く外、改善は、所得的增加によるの外は無い。從つて、先づ第一の關心は「所得」にある。「寄ると觸ると月給の話ばかりしてゐる」事は、市民的な生活の表現に外ならない。同じ樣に挨拶代りに「ドウデス儲りますか」と云ふのも同じ表現である。

自己の生活態度がかくあるが故に、他人に對する評價も、當然其の人の持つ經濟力（購買力）に對する評價となる。嚴密に云へば其の人の示す生活樣式から判斷した經濟力に就いての評價となつて了ふ。從つて第一項で述べた最も撰擇的な複雜な生活を行つてゐる人々をみると、直に（貨幣的に）尊敬して了ふのである。最も複雜な生活とは撰擇の範圍の廣い人であるから富豪貴顯が庶民に交つて「日の丸辨當」や「腰辨」を經驗したと云ふ挿話は、大名が秋刀魚を喰べた話と同樣に、大衆をして益々其の御身分を羨望せしめる丈けのものである。換言すれば是等の「下情に通ぜんとする」人々は、要するに、自己の撰擇性の廣さを示して、以つて無意識乍らにも富力を誇示してゐるのである。

しかし、人に對する評價が貨幣的であり表面的外見的であるのが不可とするならば、何の評價を以つて之れに替へる可きであるか。勿論、其の人の德性なり人格なり學識なり敎養なりに從つて評價するのが本當であらう。しからば現代都市の生活中に、是等の資質が充分に尊敬される情況にあるか否か。不幸にして此の間に對しては否定を以つて答へねばならぬ。先づ第一に是等の資質と生活の程度とが必ずしも一致しない許りでなく、往々にして反對になつてゐる。即ち、德を修め敎養を積むのが、生活を豐かにする途でない事が明白である。論者は云ふであらう、是等の資質は、物質的生活の潤澤を致すのが主眼では無いと。此の議論は立派である。しかし、玆で問題は、現代の都市の生活には、どうしても充分な購買力を持たねばならぬと云ふ前提から出發してゐるのであつて、此の爲には、單なる知や德や修養丈けでは間に合はぬと云うた丈けである。次に、現代の都會生活にあつて、一々、人間の內在的な本質的な價値を探究し、それによつて、各人を評價する事が行はれるかどうか。社會學者の云ふ、所謂鑄型的認識が都會社會にあつては生活の便法なのである。

少しく詳しく云ふならば、狹い世界に於いては、自他共に、生活の內外全面に就いて知悉してゐる場合が多い。例へば家族の如き、農村部落の如き、或ひは極めて親しい朋友間の如きは、所謂「黑子の數まで」も知り合つてゐる

間柄であり、お互に相手の外見につゝまれた内在的なものまでも充分に知悉してゐる。故に、かゝる間柄なれば、相手の外貌の如何に拘らず其の内的眞實價値に即して之れを評價する事が出來る。如何に威張つて見た所で妻の眼からすれば憂子の馭者は一介の馭者、しかも、妻より捨てられる位のつまらない馭者にしか過ぎない。農村では粗服粗髮であつても地主は地主で誰彼として知られてゐる。其の外貌の如何に拘らず、よく内味を知つて尊敬すべきものは尊敬し輕蔑すべきものは輕蔑してゐる。田舍の對人的關係は殆ど全部之れである。從つて農民は未知の來訪者に對して極度の不安を持つ、殊に外貌の立派な尊大な外來者に對しては、恐怖に近い感情を持つ。即ち相手が何者だか判らないからである。外形から判斷し評價する習性に慣れてゐないからである。

反之、都會人は、かうした接觸や認識を持つ場合が少い。都會人の接觸し面接する人間は悉く未知の人々である。既知の人々でも上述の知識に比較すれば未知にも等しいのである。隣人・同僚・顧客・店員等、比較的親しく接する人々すら一面的な知識しか持たないのである。若し、都會人が其の接觸する無數の人々に就いて一々、内的眞價を探索してゐたとすれば、其の生活は破綻に陷つて了ふであらう。又、生活上の便宜で接觸する人々に就いてさうした配慮は不必要でもある。隣人・同僚共に相當にあしらふて差支ない。顧客・店員いづれも商賣的に遇して充分である。不知が原則であるが故に、知らぬ相手が出現したとて、特に驚く事は無いのである。商人とすれば店頭に立つものは顧客か素見か、或ひは物貰押賣り寄附强請かの識別がつけば充分なのである。

此の點からして、都會人の相手を知覺するのに特殊な便法が生れる。元來今の商人の例を以つて云へば店頭に立つた人物が大體何者であるかゞ明白にならぬと頗る不安ではある。お客か物貰ひかユスリか。農民の場合には、未知の人間に對するのに不安を感ずるのであるが、市民の場合には、生活競爭の强烈な環境にあつて、相手が敵か味方か不明なるに就いて一應戒心するのである。故により早く相手の何者たるやを觀破する必要がある。茲に「型」が問題となる。

元來、如何なる人間でも、生活上、自ら「型」に嵌つて來る。政治家型、實業家型、技師型、事務員型、銀行員型、教師型、主義者型等の型が出來て來る。此の型が何故出來るかに就いては別の機會に論ずる事とするが、此の型がある爲めに、當面の人物を其の帶ぶる型によつて判斷する、即ち、「事務員だナ」「女給だナ」と云ふ風に判斷する。勿論間違ひの生ずる場合も決して少くない。所で他方、自分の胸中には色々の人物についての概念が豫めつくり上げられてある。「政治家はコウ」「勤人はコウ」「學生はコウ」と云ふ風に標準的理解がある。其處で、眼前に現はれた人物について型を看取すると、それに應じて先決的概念を結びつけて、之れで相手の判斷を作り上げて了ふ。此の認識を鑄型的認識と云ふのであるが、此の便法に基いて都會人は相手を巧みに處理して行くのである。

此の便法は、他方、相手の本質を認識する事を妨害する。何故かと云へば型による標準的豫前的概念が、本質的認識への進歩を妨げるのである。例へば「資本家」と云ふ豫前的概念を持つと當面の「資本家」がどんな内在的美德を持つと雖も、一應は「勞働者の膏血を絞る」型に觀念されて了ふが故に、其の美德に就いての理解を妨げ、資本家と勞働者の相互的理解を閉す結果となる。

現代大學生氣質を書いた或る雜誌に「裕福な家庭の子弟が多いと云はれる慶大の學生」とか「帝大の秀才か慶應の金持坊ちやん」とか書かれてゐるが、慶應とか三田とか云ふとすぐ金持と考へさせるもの、此の種の認識方法である。故に塾帽に制服の慶應義塾の學生が現はれゝば「慶應の學生だナ」と思はれた瞬間すぐ「金持坊ちやん」と結びつけられてゐるのである。此の概念の正しさ、正しくなさは色々の事情によつて異る。しかし全然無關係な、基礎の無い所に生ずるものでもない。唯最も危險なのは、極度に概念化し公式化標準化して了つた場合や確實な根據を缺いた知識に基く場合である。

例ばゴシップや噂は、農村の樣な社會では其の人に强力な制裁となるが都會では其の可能性が少くない。其の爲め特定人の社會的生命が無根據なゴシップの爲めに致命的になると云ふ事も無いとは云へない。

ゐるが、反對に農村では、噂やゴシップは是正される餘地があるが都會では其の可能性が少くない。其の爲め特定人の社會的生命が無根據なゴシップの爲めに致命的になると云ふ事も無いとは云へない。

兎に角、かうした社會にあつて、自分の面前に現はれる人間の內在的眞價によつて之れを判斷する事の出來ないのが原則である。從つて表面的な外觀や服裝・態度・言語・擧止等によつて判斷する事となる。貨幣的評價が有力なる、又止むを得ざる事情に基いてゐる。

四

第二の生活態度である個人的獨善的態度に就いて云へば、都會は凡べてについて社會的組織と制度の社會だと云ふ事が出來る。社會的組織と制度の社會にあつては、個人的に自營したり、個人的に對處する事が少ない。或ひは禁ぜられてゐる。例へば嘗ては井戸水を以つて、個別的に營んでゐた上水の配給を今日に於いては上水道事業によつて全體的に處理してゐる。之れと同樣なものに塵埃汚物の處理、下水道等がある。消防・警察いづれもさうである。救護救恤の如きも個人的に對處しないで、社會的な組織を以つて之れを行ふ、諸種の社會事業團體がそれである。既に述べた樣に教育は全部學校で引き受ける（家庭・社會教育の影響を强く主張する人々の所說も決して間違ではないが）育兒にも托兒所があつたり媒姆が居たりする。病人には病院・看護婦がある。炊事には家政婦・料理人がある。要するに充分に人や物を使役する丈けの收入があれば、一々自分で自營し自給する必要はなく、全部、他人に委せて差支ないのである。從つて、自身では如何にして收入を增加するかの方法に專心し、他は、如何にして其の得た所得を効果的に利用すべきかに腐心し、以つて生活の最大享樂を得ようとする。之れが市民の一つの生活態度である。勿論、全部が悉く他に依存する爲めには、充分の所得が無ければならぬ。しかし所得の大小に應じて多寡はあれ、いづれにしても、此の依存主義の行はれてゐる所に都會の特色がある。

既に述べた樣に都會人が利己主義者に見え酷薄不德の人間に見えるのは此の生活態度の爲めである。現に、公共的な事業は選擧權の行使にのみ限られ、他は全部、市役所や市會の仕事として委せて置いて差支ない。自ら直接に關與する必要はない。要は所定の公租公課を間違なく納入し、選擧權を行使すれば市民としての責務は濟んだ樣に思はれる。赤十字社愛國婦人會其の他社會事業團體に寄附しておけば、之れによつて社會的道德的責務は充分果してゐる。

さう考へる樣になるもの、都市生活に於いては色々の事件に對して個人的に對處する事が不可能であり、且つ場合に應じては許されてゐないからである。少しく具體的に說明してみよう。

或る無政府主義者の描いた未開人社會では、一人が發見した食物は、三度仲間を大聲に呼び集め、それでも誰も來なかつた場合にのみ、一人で喰ふ事が許されるさうである。現代人は人から物を貰つても分ける必要も義務もない。物を拾つたらば警察に届ける丈けである。特別な事情の無い限り、個人的に落主を探索する必要は無い。警察でも所定の形式に從つて處理する。從つて形式に於ける不備缺陷が最も不可と云ふ事になる。個人の善意惡意は問題にならない。拾得者は否應に拘らず所定の謝禮を受けねばならぬ。行路病者や窮乏者についても同樣である。現代人はそれ〴〵規定の機關に通告すればそれで義務を果せる。一々自分で引取つて世話したり面倒を見たりする必要が無い。假りに若し、凡べての場合に個人的に對處しなければならぬとすれば、都市の生活はどうなるか。恐らく凡べての生活が混亂の極に陷ると思はれる。都會の生活は寸秒の間違なく、各人が所定の勤務に從事する事を要求してゐる。其の定められた以外の仕事に關つてゐれば、直に所定の規率に故障が生ずる。機械や汽鑵や乘物が少しく早く運轉されても、又遲れて運轉されても、少なからざる故障を多方面に及ぼすであらう。從つて分擔し定められた以外の事には關與せぬのが生活規率の原則である。分業的專業的な組織にあつては、己の分を確守する事は第一の責務である。

茲で分業に基く專業に就いて論ずる必要が出來た。元來、專業化は、其の業務の効果を最も能率的たらしむる方法である。從つて專業者の職分は、其の業務に於いて最高の能率を發揮する事にある。從つて彼は苟くも、專業的業務以外の事象に就いて關與したり、容喙したりすべきでない。若し之れを犯せば、爲めに己の獨自の業務に悖る事となる。

此の原則の故に、醫者は、窮厄の病人に對して感情の激動を免れ平靜に專業的に處理する事が出來、法官は、法の定むる所に從つて判斷する事が出來る。教師は兒童の知育德育に就いての業務に專心し以つて、教育の効果をあげる事が出來る。若し醫師や法官或ひは教師が一々面接する人々の窮境に個人的に精神的に對應してゐたとするならば、醫師としての、法官としての、教師としての醫療上、裁判上、教育上の効果を上げる事が出來なくなつて了ふであらう。殊に是等の人々の面前に現はれる人々は同情に値すべき悲慘な生活を持つた人々である事が多い。それ故、一々それに同情し、其の方面に迄立入つて對應せんとするならば、專業者としての仕事は恐らく成功する事が無いであらう。分業の社會にあつて、之れは恐らく不幸な現象である。貧家の病人に、平然としてよき食餌と日光・空氣を與へよと處方する事は、醫師としての職務上の罪惡だと云ふ說もあるが、醫師としての責務は其の以外に出る事は出來ない。若し、貧病者に此の處方による事が出來ないとすれば、社會全體が醫師をして行はさしめずに他の組織なり制度なりを以つて、其れを行はしめるべきである。此の用意があれば醫師は無料診療所なり施療病院を指示するに止まつて、しかも、充分な處方を精神的負擔なく出す事が出來るであらう。

從つて此の專業者對利用者の關係は、頗る非人格的なものである。利用者も單に醫師、教師として之れを遇する丈けであつて、それ以外に何等の負擔も束縛も感じない。專業者の方にあつても對人的には極めて冷然と、唯業務的にのみ誠實に處理すべきものである。斯くの如くして都會的な生活は萬事が機能的な一面的な接觸に分解され盡

して了ふ。かゝる生活が、都市生活の全部でない迄も、其の原則は此の形式にある事は否定するを得ない。

註　出征兵士の列車と並行に進行してゐた電車が線路に溢れてゐた熱狂せる見送人群に突入して多數の轢殺轢傷者を出した事は人々の記憶に新しい所であらう。其の原因として電車の運轉手が同じく熱中の餘り壯途行の兵士を見送らんとした事に基因するとも傳へられたが、若し然かりとすれば、此の運轉手の態度は全くあやまれるものと云はねばならぬ。運轉中の運轉手の進退としては、運轉業務以外に寸分の油斷や配慮があつてはならぬのである。此の意味で藩主の行列に禮をとらず、農耕をつゞけたと云ふ農民の態度は立派なものである。

斯かる意味で都會人は機能的に規率せらるゝ以外、何等全人格的な束縛を受けるところが無い。之れ都會生活の自由なる所以であり、此の自由の反面が獨善的生活態度となる理である。

五

大都會の如く、複雜で廣大な社會にあつては、生活を規率して行く上に當然、多くの統制が必要になつて來る。都會が田舍に比較して規則や法律の多いのは其の爲めである。從つて市民は多くの法律規則に束縛されてゐる。此の場合、市民は如何に善意と雖も個人的に對處する事は許されぬ。例を以つて云へば、自分は健康體であるの故を以つて痰を街路に吐いてはならぬ。同樣に車馬の通行が無いの故を以つて、停止信號を無視し街路を横斷してはならぬ。若し複雜にして繁忙な都會に於いて各人が個人的に善處して差支ないとすれば、生活は全く混亂に陷るであらう。充分なる防火設備のある故をて以つ板・茅葺きの家屋を建築したり、敏捷の故を以つて、赤信號を無視して自動車・電車の間を走り拔けたりする事は、いづれも規則違反の行爲であつて充分戒められねばならぬ行爲である。

都市は一つの制度社會であつて、此の制度規率に基かねばならぬ生活體なのである。勿論田舍にも慣習やその他の制度があつてそれに從はねばならぬ場合が少くない。しかし個人的に善處して差支ない場合が決して少くない。左側通行・咯痰・放尿の如き特に禁止された場所以外には個人的に善處して差支ない事項である。反之、上述の如く都會では充分な規率が要求される。嘗て停止信號を無視して街路を横斷し自動車に轢かれた學生が、負傷の如何に拘らず、信號無視の責任を問はれた事實があつたが、之れが當然なのである。斯くの如くして遊園地公園等の規則は都市にあつては充分に守られねばならぬ。騷音防止の目的の爲めには、其の規則を徹底せしめねばならぬ。紐育では鷄も騷音にならぬ樣、聲帶手術を受ける必要があると極言した論者もあつたが、規則遵守の精神は其處にあるべきである。

斯くの如くして制度があり、規則がある以上、個人的の善處を許さぬと云ふ事からして都會人の生活態度に於ける非人情が生れ、前項の獨善的態度に合せて都會生活非難の狙となる。即ち規則に律して行動しておればそれで生活道德から解放されるの所感は當然起り勝ちである。制度規則の道德と個人道德との關係は相當微妙であつて、玆では論じ難いが、個人の善意的對處を認めぬ限り、個人は道德的に責務から解放される。唯、制度や規則が不備な場合になると個人道德の補足的作用がどうしても必要になつて來る。老人子供に座席を讓る事は規則ともなし得るが、車中の極度の混雜は、運轉體系や設備の不備不充分の結果と云ふ可きである。從つて先づ其の改良を計るのが

先決問題であつて、其の未完期間中、個人が道義的に對處して幾分なりとも弊害を緩和する必要がある。其れを、車中混雜及び其の整理を常に乘客の道義心の有無にのみ藉口し、何等運轉・經營上の改善を爲さゞるが如きに於いては、當局者の怠慢、最も甚しと云ふ可きである。ラッシュアワーに於ける混亂又然りである。謙讓の美德を以つて進退する事が如何に處世上困難であるかを知るであらう。

註　或る老女は朝夕の乘物の運轉及び乘客の態度が頗る不親切亂暴で生命の危險を感ずる旨を嘆いた。之れに對して朝夕の混雜時に何にも好んで御老人が出かける必要はなからうと反駁した若い者があつた。此の議論は、此の項で論じてゐる都市生活の一面を非常によく物語つてゐる。老人若人の、いづれの主張が正しいかは別問題として、之れは恐らく多くの人々が、此の老女的になり、或ひは若人的になりに、日常、屢々經驗してゐる事と斷定し得る。

兎に角、社會化された制度的社會生活にあつては、個人は制度的に又社會機關を通じて、對處する。其の故に、制度と機關の完備が必須なるは云ふ迄も無い。之れが制度の道義性の問題になる。此の問題は、詳しく論ずる餘裕が無いから、原則論丈けを說明するに止めるが、制度・機關はよく其の目的と實情とに合致せねばならぬ事を以つて根本原則とする。貧窮の人々を救ふ手段が、社會化され、個人的責務が無くなつたならば、その社會的機關は最もよく其の機能を發揮せねばならぬ。放尿・咯痰を禁ずるならば、適當の場所を設定して必要に應ぜねばならぬ。交通規則を設けるならば、交通流の實情に即せねばならぬ。人通りも車馬の交通も極めて少ない所に靑赤の信號を掲げても無駄である。否むしろ害がある、何となれば人々が之れによつて規則無視に狃れるが故に。無意味に廣い道路が兒童の自由な遊び場になつてゐる場合も之れと同じである。

斯くの如く制度や規則及び機關を以つて社會的に全體的に規率し對處するからには、其等がいづれも崇高な倫理性を持つて來なければならぬ。制度・組織に就いて此の社會的倫理性が認められないと社會の運行は頗る困難なものとなる。制度・組織の意義は玆にある。即ち、社會の實情に即して、しかも市民の、從つて社會の道義性を確保し得べきものが、本當の制度・組織である。

此の倫理性は前述した專業家の業務的道義と一致するものである。專門職技に從事する人々が、爲めに接する人々に對して自己の職能に關する點以外の事柄に對しては全然無關心で差支ないと云ふ事は、既に述べた樣に、其の代償として專門職能に就いては最高の責務を要求されるのである。故に此の責務を果さぬ專門職技の擔當者は最も非難されて然かる可きものである事、制度社會に於ける制度の不全の場合と同樣である。

六

此の點に都會生活が、集團生活として、殊に大きく且つ廣い社會集團の生活形式として、一段と進步した段階に在るものと認める事が出來る筈である。即ち、都市に於いては、凡べての關心が普遍化されて來る。他人に對する同情・憐憫・救護は、單に近親・隣人・知己と云ふが如き身邊の特定人に對するものでなくなつて、一般に窮厄困憊の生活に對する態度となつて來るからである。從つて、一段と高度の善及び正義並びに愛に就いての自覺を持たねば、發現する事の出來ない形式なのである。其の爲めに往々、都會人は次の樣な倒錯に陷る。即ち眼前の個別的・實現的な不正困苦を見逃して、普遍的な理想的な不正窮乏に對して奮起すると云ふ結果になる。故に目前に苦しめる行

路病者を救ふ氣持はなくとも、眼前に衰弱困憊する兒童に一椀の食を惠む事はなくとも、世間の窮厄者、缺食兒童を救護せんとする「主義」「運動」には直に贊意を表するものである。

此の個人的でない、直接的でない、善・正義・愛の表現が何故一段と高度かと云へば、社會生活が廣大になればなる程、直接身邊的な關係よりも、間接的普遍的な關係が多くなつて來る、而して此の間にあつて處する生活の形式及び態度は、當然、個人的身邊的のものから游離した、一つの「主義」「原則」の形式のものでなければならぬから、此の點で都市の生活者は、高い道德律を其の生活に體しておらねばならぬのである。而して其の道德律の表現が此の「原則」の確立と「實踐」による完成とである事は前述した通である。

實際の生活について見れば、此の直接的身邊的な個別性と、間接的原則的な普遍性との兩者は、交錯してゐるものである。或ひはいかなる社會にあつても、其れが未完成であり理想的でない限り、兩者は補足し合ふ可きものであるかも知れない。事實、都會人と雖も、其の身邊的なもの、近親・知人・隣人等に對しては多分に同情的である。同樣に農村人が普遍的な「原則」に關して無關心だとは云ひ切れない點がある。しかし都市社會にあつては、其の特色として身邊的な關心よりも、普遍的原則的關心による處理が重要なのであるからして、市民としては、此の原則的關心が充分强調されなければならぬのである。現在の市民生活に對する批判や非難の內には、此の理を充分に辨へないものが少くない。市民に對して咎めらる可きは、彼等の個別的身邊的道義心の薄弱よりも、全體的普遍的道義心への關心の微弱及び此の道義心の制度・組織化に於ける不備不足に就いてゞなければならぬ。

此の關心及び其の實踐が「自治的」であるか或ひは「官治的」であるかは別の問題であると思ふ。市民の、此の「原則」的自覺が强大であるならば「自治制」は成功するであらう。反之、市民の自覺が充分でなければ「自治」は失敗する。市民が徒らに個人的身邊的道義心や愛に捉はれてゐる場合には、其の市民が個人として如何に善良であつても、「自治」に成功し難い。市民の如何に拘らず、廣大な都市社會は、生活の整調、發達の上に於いて、別個の組織と制度とを必要とするのである。其れ故、若し市民の此の社會的自覺が充分でないとするならば强制的にも組織と制度とによる統制が必然となる。要するに都市社會として、かくある可き點は嚴然と定められてゐるのである。問題は、たゞそれが自治的であるか、强制的であるかに就いて實行の方法上相違がある丈けである。

いづれにもせよ、都市の廣く且つ大い生活集團には、その集團の爲めに理念化された原則が確立す可き必然性を持つ。市民は當然、此の必要の裡に養育される。市民が鄕土性を喪ひ、世界主義化（コスモポリタン）するのも、當然の結果と云はねばならぬ。都市生活に於ける國際調は、此の生活基調の表現に外ならぬ。

近來、大都會に於いて近隣社會性の確保として町內會組織の再建が大分喧しく論ぜられる樣になつて來た。筆者も此の運動及び機運に就いては滿腔の敬意を表するものである。誰かゞ今日の大都市は精神の砂漠であると喝破したが、人間味のある生活や潤ひに就いては成程、頗る足らざるものがある。近隣親和の醇風美俗は誠に心よいものである。しかし「原則」の確立を基底とする現代都市に、個別的身邊的關心（或ひは鄕土的關心、肉親的愛着）の再建をはかると云ふ企圖は果して成功するであらうか。現在の時局は、人々に、確かに個別的な處置から社會的處置

への移行を感銘的に訓へた筈である。安く買ひ溜めておけと云ふ、主婦心得は、非國民的買溜めとして排撃された筈である。從つて市民が側近の者、身内の者に對し近所の者に對してのみ顧慮する事が、奬勵せられた時、又々不測の弊を惹す事なしと云ひ得るであらうか。

殊に、近時の町内會整備の問題は、時局的に特別な意義を持つてゐる。即ち緊急時に於いては、市民が直接に何等かの組織を以つて自己の防衛や整頓に立たねばならぬと云ふ事が痛感されたのである。換言すれば從來の様な全體を一括した中央的組織にのみ委せておいたのでは、萬一の際に役に立たぬ事が明白になつたからである。丁度、前に述べた様に制度や組織の不備を個人の道義心で補足すると同様に、非常時に於ける災厄に處する爲めに、全體的組織の不足を補ふ便法としてゞある。故に當然中央組織の下に整備せられるものであつて、其の意味では單なる自主的な部落的結合とは異る。中央集權化の體制にあつて當然の事である。唯、町内會的組織の社會的意義に就いては、時局的以外に認める可きものが少くない。しかし、之れは別問題であり、且つ他に發表したものがある故に、茲には省略する。町内會組織に就いてはなほ別に論ずる機會もあらう。（本年九月「社會事業研究」に於ける拙稿「町内會組織の現代的意義」を參照され度い）

七

都市社會が、崇高な道義性を確立し、「原則」的に之れが實踐を計らねばならぬ社會である事は、既に述べた通である。何故さうなければならぬかと云ふ理由に就いては、社會が廣く大く且つ複雜であるが故にと說明しておいた。

今、此の問題を別の角度から視察してみよう。

人間は自己に對する他人の態度に就いて自我を認めると云はれてゐる。即ち他人に映じた自分の映像を見て自分と云ふものを知るのである。此の場合、他人は恰も鏡である。從つて如何に自我を觀念するかは鏡に映つた具合による。鏡に豪らさうに映つてゐれば、自分は豪いのだと思ふ。さうして見ると、人間は皆「虎の威を借る狐」である。其處で或る人間に就いて見ると、彼は家庭に於いては父であり夫であるとの自覺を持つ、子供は父として尊敬し、妻は夫として敬愛するから、彼は父として行動し、夫として行動する。しかし一度外へ出て大きな世界に入ると彼は最早、周圍に父とも夫とも映し出す鏡は無い。其處では職業型によつての一つの人間が映つてゐるに過ぎない。若し彼が銀行員なれば或ひは銀行員らしければ、多くの鏡が彼を銀行員として映し出す、重役・課長・小使であつても學者・教授・訓導であつても、職人・職工・日傭取であつても、俳優・ダンサア・給仕であつても、いづれにもせよ、職業による型、或ひは「らしい」型によつて、それと映じた自己を見出す。要するに一介の型に嵌つた人間である。茲に於いて彼は何某としての自我でなく、一介の型に嵌つた人間としての自我を見出す。しかし此の場合に於いても、他人が彼に對して積極的態度を示した場合に限られる。大きな群衆の内に入つて了へば、最早、たゞ一つの人間として丈けしか映じてゐない。或ひは全然無視されてゐる。さうすると自我の知覺を失つて了ふ。若し此の際、是非とも自我の映像を他人に强制し様とするならば、型はづれの態度に出るのが一番捷徑である。華美な服裝をするとか奇拔な風體を示すとか。或ひは豪奢な身裝は、他人の眼を惹いて恰も金持らしく見せる事が出來る。

此の理由を以つて自己主張の强烈な場合にあつては尖端的な風俗や態度が行はれるのである。銀座を歩く人々は恐らく新しい女性の服裝や美容が頗る奇矯に過ぐるものゝ多いに一驚するであらう。しかし先頃某婦人雜誌で、銀座街頭に於ける婦人服裝の調査を行つた結果によれば、かゝる風體の女性は其の數が頗る少いと云ふ事である。つまり、如何に彼女等が印象的であるかと云ふ事が之れによつて立證せらるゝ理で、此の點、彼女等の意圖は全く奏功してゐると云はねばならぬ。

此の自己映像の變化に應じて、自我の內的束縛が變化して來る。家庭にあつては父・夫としての束縛があり、勤務先に行つては、その身分に應じての、或ひは何某としての束縛がある。しかし外部に出れば、唯他人の眼に映じた丈けのものとしての束縛をしか感じない。會社員らしい、勞働者らしい、先生らしい……と映じた儘に、一つの型としての束縛を感ずる丈けである。其處で是等の身分的な束縛に身を委ねる丈けである。或ひは、之れすら破棄して了つて差支ない。唯、他の人々が、かゝる場合に若干の不審を持つ丈けである。或ひは荷風描くところの墨東綺談にある樣に、身裝をとりかへて了へば、なほ更、自我の內的束縛を解除する事が出來る。

此の內的束縛は必ずしも道義性の低下を意味するものでは無い。しかし何某と知られざる世界にあつては放逸である事も差支ない場合が少くない。斯くして色々のスキャンダルが生ずる。身分にあるまじき生活が生れる。同時に「旅の恥はかき捨て」と云ふ心理が生れる。之れはいづれも一個の人間が、たゞ一個の人間に過ぎなく、其の身裝・態度・言語よりする推測も單に推測に止まり、或ひは、變裝の有無にしても、必要ない以上、一々その眞僞を穿鑿する必要も努力も支拂れないが故に、かゝる世界では全く一介の人間で過ぎ去つて了ふ。自我の意識は最も空漠として了ふ境地である。

しかし此の場合本來なれば、自我の具體性が消滅しても、一市民としての普遍的自我が擡頭して來て、それによる束縛が有力になるべきである。既に述べた樣に都市社會の崇高なる道德性は確かにそれを要求してゐる筈である。普通に云はれる、「市民としての」「公人としての」と云ふ觀念は正さにそれに該當するものである。從つて市民は「何某」としての「父」「夫」としての自我と束縛とを脫した曉に於いては「人間」としての「國民」としての「日本人」としての「市民」としての自我を取得し其の內的束縛を感ずべきである。之れがつまり「公德」であり「社會道德」である。

かゝる德義的解放と共に、自我意識の溥化は、自己の價値に就いての低下を意味する。狹い社會に於いては、善かれ惡かれ其の人としての價値を評價せしめる事が出來る。しかし、群衆の裡に沒入すると自我の喪失と共に此の價値は見失はれて了ふ。換言すれば人間に就いては自己の價値を認識せしめ、之れに基いて自我を擴大して行く範圍が比較的に狹いと云へる。而して此の範圍は擴大するにつれて、自己の價値意識が少くなる性質のものである。換言すれば自己の價値を其處まで延長し擴大して行く事が出來ないのである。

若し自己の價値意識を其處まで延長し擴大せしめて行く事が出來なくなると、自己と他との連結が失はれ、從つて他に對して關心的であり得なくなる。吾々が家庭を考へ、友達やグループを考へ、隣近所を考へ、町を考へるのは、是等の範圍には自分と云ふものを押し擴げて行く事が出來るからである。換言すれば此の範圍には自他が同じてゐるからである。自他が同じてゐると云ふ事は、自分の認める內在的價値が他人にも感得されてゐると意識され得るからである。反之、廣い世界に就いては、特殊な人間を除く外、さうした意識は持ち得ない。從つて普通市民

は、自我的に身邊的には、是等のものに對して關心的であり得ないのである。

かゝる理由を持つて、市民が全社會の事象に就いて身邊的な個人的な關心を寄せ得ない事となる。從つて、全體的に處理する事を必要とする都市社會にあつては、此の處理を個別的直接的身邊的な形式に求めずに、普遍的間接的原則的なものに求めるの外は無い。之れはかゝる社會體制に於いては當然の理であつて、又、市民も當然其の節度に服さねばならぬ所である。既に述べた樣に一市民の自覺の有無に拘らずさうなければならぬ。

八

扨、種々論じて來たが、かうした所に都市社會の特質と從つて都市生活の樣式や態度の特徴が存在すると思ふ。其の善惡是非の議論は暫く措き、都市社會と其の生活がかうしたものであると云ふ事實は判つきりと認識しなければならぬ。前項にも述べた樣にラッシュアワーの實情を辨へないと、徒らに謙讓の美德を說く事になる。其の美德を說く事はいゝ。しかし說敎された者が世間に出て、其の美德の行はれざる事を知つた時、結局、如何なる結論に到達するであらうか。恐く「かの說敎も机上の空論だ」と思ふに違ひあるまい。かくして世間の多くの有德な道學者は、不知不識の間に、自分達の說敎の効果を喪失しつゝあるのではなからうか。「學校ではさう訓へたが」それとは別の何ものゝか〻實際の生活にはあると兒童に思はせる樣になつて、學校敎育と實際敎育とに喰違が生ずると、知育方面に於いては兎に角、德育の方面に於いて頗る寒心に耐えざるものがある。過日の「學生狩」を契機として盛に「敎育論」が論議されてゐるが、如何なる方面の論者と雖も、思をよく現在社會の基底に迄深く到らせて見る必要があるのではなからうか。

なほ、都市生活其のものに對する倫理的道德的批判や、農村生活との對照等に就いては全く殘して了つた所が多い。更に都市生活の特色である可き「有閑性」や「文化性」の問題も檢討すべきであつたが、遂に及ぶ事を得なかつた。

元來、本稿は序に於いても述べた樣に最近に於ける生活論——生活批判・生活統制・生活更正の具體的諸問題を取扱ふ豫定であつた。故に都市の「有閑性」や「文化性」は重要な題目に外ならなかつた。それなのに之れに及び得なかつたのは、都市生活の根本基底を明瞭にするに汲々たる爲めであつた。なほ、本稿は最近に於ける生活批判の諸說を一々精細に引用紹介する積であつたが筆者の手違ひで其の運びに到らなかつたのをお詫したい。唯、最近の新聞なり雜誌なりを讀むにつけて、本稿に論じた所を懷ひ起される事があつて、何等か指示する所ありとすれば筆者の目的は達したと云ふものである。